

離婚される子

国際離婚の陰で

その朝、千葉県印西市の中西アイ子さん(53)の長男(3歳)は、なかなか起きてこなかつた。「そろそろ…」声をかけるために長男の部屋に様子を見に行つた中西さんが見たのは、長男の自死した姿だつた。

両親らにあてた数通の遺書があつた。三歳になる一人息子の写真の裏にはペンで走り書きがされていた。「お母さんの言うことを聞いて立派な大人になつてほしい」大学の研究者だった長男は、妻の浮気の発覚をきっかけに離婚を決意。命を絶つた一〇七年七月のその二日

月前から別居を始めていた。だが、一人息子の引き取りをめぐつてのが常識の日本での争いとなり、妻は息子は、父親が親権を得るは親権を求めて思い悩んでいた。

際に子と引き離された

「親権は法廷で争えた」

まだ子どもを持つてゐる親権者とした。

警察に偽りの届けもし

ていたため、長男の消

ばよかつた。命を絶つたのに悔やむ。

息は三年間もつかめなかつた。昨年秋、高校生になった息子の修

かつた。やつと居所を

親権は法律で争えられたもう悔やむ。

息の意向で長男にはな

かなか会わせてもらひ

ました。息子に慰めのつ

もりで「再婚すれば、

離婚後、一方の親だけが親権者となる単独

親権制の日本では、親権を取れなかつたもう一方の親が養育にかかり、気づかれないと

わざわざなるケースがあつた。

親子のきずなは保ち続けたいと、離婚後も定期的に子と会う「面会交流」を求める親が増えている。だが、制度として確立されておらず、回数や程度はあくまで夫婦間の話し合いや司法判断に委ねられている。

東京で暮らす米国人の大学教員スティーブン・クリスティさん(53)は、日本人の元妻とも、日本で離婚してしまった。親がたとえ離婚しても、父母とともに子どもの養育にかかる仕組みを日本でも探れない

のだろうか。子どもにどう父は父、母は母に変わらないのだか

片方のみ親権悲劇続く日本

10.11/12原木

3年間分からなかつた長男の居場所が分かり、家庭裁判所に面会交流を申し立てたクリスティさん。昨年、東京・渋谷で長男と数時間の面会がかなつた



きずな裂かれ自死

欧米の家族観と国内法整備 共同親権が主流の欧米では、離婚後も双方の親と子の関係や接触は維持されるべきだと考えられている。ハーグ条約は一方の親による子の連れ去りを、他方の親が子に接触する正当な権利を奪うのみならず子が親との関係を維持する権利を阻む行為とみなす。同条約加盟には親権の共同化、一緒に暮らせない親子の面会交流権の保障、日本人配偶者が海外で家庭内暴力(DV)被害を受けて子連れて逃げ帰った場合への対処など国内法の整備が必要とされている。

親子のきずなは保ち続けたいと、離婚後も定期的に子と会う「面会交流」を求める親が増えている。だが、制度として確立されておらず、回数や程度はあくまで夫婦間の話し合いや司法判断に委ねられている。

東京都国立市の植野史さんは十一年前、夫の暴力が原因で離婚した。家庭裁判所の調停員は「経済力のある方がふさわしい」と夫の方を四歳の息子を

元妻が「暴力夫」と子が担当しました」と妻が「暴力夫」と子が担当しました。

東京で暮らす米国人の大学教員スティーブン・クリスティさん(53)は、日本人の元妻とも、日本で離婚してしまった。親がたとえ離婚しても、父母とともに子どもの養育にかかる仕組みを日本でも探れない

のだろうか。子どもにどう父は父、母は母に変わらないのだか

としての権利を持ったのに」とクリスティさんは残念がる。

親がたとえ離婚しても、父母とともに子どもの養育にかかる仕組みを日本でも探れない

のだろうか。子どもにどう父は父、母は母に変わらないのだか

としての権利を持ったのに」とクリスティさんは残念がる。

親がたとえ離婚しても、父母とともに子どもの養育にかかる仕組みを日本でも探れない